

令和8年度 第1回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：令和8年7月28日(火)午後3時から午後5時まで

【開催場所】：鳴門市役所201会議室

【出席者】：審議会委員17名

鳴門市9名 阿部教育長、小椋教育次長、坂東教育総務課長、藤川社会教育人権室長、
和田学校教育課長、岡教育支援室長、小寺こども保育教育課長、事務局2名

傍聴者2名

○次第

- 1 開会
- 2 審議会委員の紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
(1)アンケート調査報告について
(2)第三期鳴門市教育振興計画策定に向けた調査結果分析について
- 5 その他
- 6 閉会

○会議資料

- 【資料】 第二期鳴門市教育振興計画
- 【資料】 会議次第
- 【資料①】 鳴門市教育振興計画策定のためのアンケート調査【結果報告書】
- 【資料②】 第三期鳴門市教育振興計画策定に向けた調査結果分析
- 【資料③】 鳴門市教育振興計画策定スケジュール
- 【参考資料】 平成26年度・令和7年度 保護者アンケート比較
- 【その他資料】 アンケート調査報告書差し替え分

○会議概要

- 1 事務局が開会を宣言した。
- 2 審議会委員が自己紹介を行った。
- 3 会長があいさつを行った。
- 4 議事(1)(2)について事務局が説明した。
議事として、各委員が意見、感想等を述べた。
発言の内容は以下のとおり。

■議事(1)

N 委員

・保護者と教職員の方のアンケートのデータは非常に分かりやすいが、肝心の子どもの声がないので、アンケートという形でなくても、吸い上げる必要がある。

会長

・子どもの声については、前回も意見があり、事務局でも新たな施策を考えているようである。

事務局

・資料3にあるように、8月に各中学校の生徒を集めてワークショップを開く予定である。ここで出た意見は10月以降の会議で審議いただければと思う。

会長

・このワークショップは中学生20名が対象となっているが、テーマやどのような中学生が集まるかは決まっているか。

学校教育課長

・各中学校で声掛けしていただき、生徒会などから集まっていただく予定である。

・ワークショップで議論していただく内容は、事前に簡単なアンケート調査をさせていただき、その結果を見て決めていきたいと考えている。出ていただく生徒には事前に情報提供をして、準備をさせていただく予定である。

会長

・N 委員、どのような内容なら、子どもの声を吸い上げられると思うか。

N 委員

・自分がPTAの会長や学校保健委員会をしていく中で、不登校になる生徒は、中学校で対応するのは遅い。子どもの数が減り、クラス替えが減っているので、人間関係が小学校低学年の時点でできあがってしまい、そこに入れなく、学校に行きにくくなるというパターンが多く見受けられる。「学校は楽しいですか。」くらいの質問なら、低学年でも答えられるので、学年に合わせて質問内容を変えることで、1人でも多くの子どもを救う可能性がある。

会長

・小学生の意見をどう拾うかは、前回の会議から意見が出ており、小学6年生の全国学力学習状況調査の児童質問紙調査の中にそのような項目があるので、それを参考にするという事務局の回答があったが、それよりもっと低い年齢から調査を行うべきだという意見だと思う。

・前回の保護者のアンケートが10年前だったが、今回のアンケートを見て、PTAとして感じることはあるか。

I 委員

・15ページの「あなたが教育の場面で協力できること・したいことは次のどれですか。」について、「学校行事・授業への参加」が46.3%となっているが、学校の先生の見解としては、保護者は参加してくれるが、子どもたちが楽しむ手伝いのために参加しているわけではなく、保護者自身が楽しむために参加する人が増えており、手伝いをしてくれないとのことである。保護者の子どもに対する考え方などをもっと追究していかないといけない。

会長

・自分が楽しむだけでなく、子どもたちのことも考えて教育に参加してもらおうという保護者への啓発が必要ということだ。

・保護者だけでなく、地域の方々も子どもたちの教育に携わっていると思うので、ご意見はあるか。

N 委員

・アンケート結果を見て、自分は、可能性はあると思った。保護者が学校に協力したいという形ができ

ていることは大きなことだと思う。

・いいものを生むためには学校、行政、家庭がいい緊張感の中で、いい危機感を持たないといけないので、保護者アンケートで重要度が高いが、満足度が低くなっている「①学力向上」に対しては、お互いがもっと危機感を持つべきである。自分がPTA会長をしていたときに県から学力指導が入った。来た校長先生が総合的な学習を行い、地域の伝統のものについて、探究し、地域の人と話をし、いろいろな体験をすることによって、1年で学力が向上した。「②市の自然や歴史、文化の学習」の重要度が高くなっているのは、教職員も同じだったので、このあたりをうまく活用しながら、教科書だけでなく、遠足や社会科体験など子どもたちが楽しいと思うことを行い、楽しい中で自然と学びが入ってくることがベストである。鳴門は企業が多くあるので、学校がしっかりと声かけをしていけば、今後を支える子どもたちを育てることができる環境をつくれると思う。それをする中で、「①学力向上」を含めた、様々な問題が解決すると思う。

・教職員のアンケートの中で学力の低下と業務の負担が大きなウエイトを占めているが、学力の低下を認識している中で、何か工夫しているのか気になる。その中で、統廃合を行い、教職員の数を増やしても、教育の本質が変わらないと何も変わらないと思う。

会長

・4ページの「お子さんに、どのように育ててほしいと思いますか。」の回答が3つまで選べる問いに対して、21.9%の保護者の方が「高い学力や豊富な知識を持つようになってほしい」と選んでいるので、ニーズとしてははっきりあると自分も思う。一方、18ページの「学校で、子どもに特に身に付けてほしいと思うことは何ですか。」という教職員アンケートでは、「基礎的な学力を身に付ける」が高いが、「高い学力を身に付ける」は低くなっており、これが理想的な形なのかもしれないが、これで本当にいいのかも思う。

Y 委員

・娘が小学6年生だが、先生の負担が年々増えている気がする。先日、とある学校に見学に行った際に、担任の先生が専門でない習字の授業であたふたされていた。外部から習字の先生を呼んだら、先生の負担も減るのではないか。それと習字の授業中に先生がWordから出したお手本を用意していたが、それが筆では書けない丸文字だった。筆を触ることが目的ならそれでいいが、習字ならこれは違うと思った。学習要領がどうなっているか分からないが、きちんとしてほしいと感じた。

会長

・教員の資質、能力は大事であるというご意見だった。以前もこの場で、若返りの中で専門性が引き継がれていないというご意見もあった。そのあたりは教育委員会指導の下、各学校にも頑張っていたかなければいけない部分だと思う。

K 委員

・15ページの「あなたが教育の場面で協力できること・したいことは次のどれですか。」の回答だが、保護者の「地域の歴史、文化の伝承」に対しての興味が低い。親の世代が低いということは、家庭内でも、それについて興味を持たない、話さないになりかねない。今後、統廃合などで、地域が消えることがあるので、親がある程度、「地域の歴史、文化の伝承」に対して、積極的に参加していただく必要があるのではと考えている。

・「地域の安全・防災に関する活動」についても、16.8%と低い。板東小学校との避難所開設訓練をやっているが、今年は板東小学校に自主防災会を作ってもらい、先生、保護者を含めて地域と一緒にやっていく。しかし、若い世代の保護者の方が防災に興味を持ってくれないと、避難もできないし、避難所も開設できない。子どもと一緒に保護者が興味を持ってもらえるように、検討いただけないだろうか。今年の10月2日には500人規模の防災訓練を行うことになっている。

会長

・「地域の歴史、文化の伝承」について、K 委員、学校からのニーズなどはあるか。

K 委員

・調査結果分析資料の14ページにある「郷土愛を育む教育の推進」のところで、鳴門市の郷土愛について考えたときに、コウノトリ自身にスポットを当てるのではなく、コウノトリが住み続けられる素晴らしい自然環境にスポットを当てるべきだと思う。レンコンの生産は全国2位であり、そのハスがコウノ

トリの生活を守っているということも、子どもたちに知ってもらい、どういうものが生態系としてあるのかを教えていただければありがたい。

会長

・保護者の「地域貢献への関心は相対的に低い」ことになっているが、子どもがこの鳴門に誇りを持つことは非常に大事なことだと思う。誇りを持てていれば住み続けたくなるし、帰って来たくなると思うので、それを抜きにしては、教育振興は語れないと思う。

E 委員

・基礎学力の向上については、当然だと思うが、教職員のアンケートでは、高い学力については重要視していないという結果が出ており、8ページの「お子さんに習い事をさせる理由をお聞かせください。」を見ると、「学校の勉強を補うことや学力向上のため」が一番多いので、ここで高い学力を補っているのではないかと思う。学力の向上を考えると、テキストや課題などのカリキュラムを取り入れて、繰り返しやらせていたら、点数は上がると思うが、現在でも学校生活の中で今あるカリキュラムをこなすのに必死で時間が足りておらず、先生方からは授業数も足りていないとも聞くので、授業以外の体験学習の時間が取りにくい状況にある。学力が大切でないわけではないが、基礎的な学力さえできていけば、もっと必要と思う人は習い事で上げていけばいいと思う。保護者のアンケートでは、人とのつながりや和を大事にすることも重要視しているので、そういったことも学校で取り組めないだろうか。ただ、これを学校側が働きかけるのは、カリキュラムをこなさないといけないなどがあり、とても難しいと思うので、鳴門市から投げかけていただきたい。防災と同じで、地域一帯で行うことが大事なので、地域と協力して進めていくためにも、鳴門市が先頭となって取り組んでいただきたい。

会長

・今のことに関連して、81ページに教職員が必要と思う研修について聞いている設問があり、「教科指導に関するもの」が71.7%となっている。これは、今のままではいけないという意識が働いたのではないか。「子ども理解・生活指導・教育相談」が82.5%と高く、これは生徒指導面で何か思うところがあるのではないか。「特別支援教育に関するもの」が77.3%と2番目に高く、これらにニーズがあることが分かるので、市だけでなく、県のほうでも、必要な研修を組み立てていると思う。ただ、なかなか教員の質が上がってこないというところもある。

・地域と協力して鳴門の教育力の底上げが必要というご意見をいただいたが、地域の側から何かご意見はあるか。

A 委員

・小学校へ本の読み聞かせに行っているが、自分の子どもが通っている小学校でなくても、協力したいという保護者は結構いるので、学校主体ではなく、鳴門市が主体となって働きかけをしていただきたい。子どもが成長してしまっている方や、普段は家で働いていて午前中は空いているような方に手伝ってもらうなど、いろいろな形があると思う。

会長

・人材バンク的なものを市が主導で行うということか。

A 委員

・そうだ。

I 委員

・ずっと現場にいたが、学力は毎年課題となっているところであつたし、保護者対応もいろいろなケースがあり、毎日、悩んでいた。

・これから「暑さ」というものが続き、子どもたちは生きていく上で、それにずっと付き合っていくといけない。世界的にも災害が起こっているのだから、それらについて、考えていけないといけないと思う。学校でいえば、暑すぎてプールが使えなくなっているし、夏休み中に職員が出てきて、プール当番もできない現状もある。水泳の指導は泳ぐことができるようになるだけでなく、水に浮けるようになって、水難事故に遭ったときに自分の命を守る力を備えることも大事なことだと思う。それを補うためにも新しい施設を作って、水泳の指導を続けていければと思っている。

・給食がない夏休み中に食生活が乱れるので、それを防ぐためにも、スープ1杯でも飲めるところがあ

ればいいと思っている。

・暑さや水泳などに関する命の守る取組を入れていくことは大事だと思う。

会長

・子どもたちの命を守るといことは何においても大事なことで、このような振興計画の中でも大事な部分になると思う。

・施設の話に関して、参考資料2ページの事務局がまとめている項目に「成果を維持し、次の水準へ」とあるが、「次の水準」が何なのか気になる。

N 委員

・学校の先生の中には「総合」の授業を1つ科目が増えたと認識されている方が多い。「総合」という授業は、国語、算数、理科、社会、道徳すべてが含まれているものだと、自分は認識している。先生たちがゲストティーチャーの話を聞いた上で、いかに国語、算数、理科、社会、道徳の中に落とし込んで、子どもたちに伝えていくかが、プロの教師としてのテクニックの見せどころだと思う。例えば、コウノトリの米などの話なら、販売が関わってくるので、算数が必要となり、最後に授業内容をまとめる際には国語が必要となっていく。実際に私のいた学校ではそうやって学力を上げていった。さらにその当時の校長先生が、先生全員の授業を聞きに行き、先生一人一人に悩みごとを聞き、アドバイスをしていていた。そうすることによって、ほかの科目の子どもたちへの教育のアプローチが変わったという話も聞いている。「総合」はほかの科目と連動していることを、鳴門市として出していけば、いろいろな人が関わりやすいし、いろいろな教材が発見しやすくなると思う。自分は、鳴門市は教材の宝庫だと思っているので、活用していけば、これから実際に鳴門を背負う子どもたちが、いろいろな歴史を知る子どもたちに育ち、次の代にもつながり、いい鳴門になっていくと思う。鳴門が四国の玄関口であると知らない子どもたちが多くいると聞いているので、どんどん進めていただきたい。

会長

・「総合的な学習」は、私が若いときにスタートしたもので、スタートしたときには勢いがあったが、コロナ禍のために、地域との関わりがなくなってしまう、しぼんでしまった。その後、教員が新しくなったこと、働き方改革が求められたことで、十分な学習ができない面も増えていっている。一方で、高等学校のほうでも総合的な探究の学習ということで着目されており、これからという面もある。もう1回仕切り直しの教科であるので、そこに地域の方や、新しい勢いのある方を巻き込みながら展開できれば、活性化につながると思う。

I 委員

・いろいろな意見が出て、「なるほど」と思うものばかりだった。最後に「総合」について出たが、これは子どもにとって楽しいことである。子どもは楽しみがなければ、勉強を頑張ろうという気にはならないので、そこは大事なことだと思う。ただ、カリキュラムもあるので、そのあたりは工夫が必要だとも思うが、子どもの学力を上げるためにも、楽しみを入れながらすることで、やる気も起こさせるのではないかと感じた。そのような取組ができる範囲でいいので、少しずつ増やしていただきたいと思う。

・楽しみだけでなく、ゆとりもないと、勉強に集中できない気がする。自分の子ども時代を思い返すと、いろいろすることもなく、悩みもないときには、学力が上がったと思うので、それには家庭の協力も必要だ。

・教員の研修について、自分も研修を受けさせてもらってきた中で思うのは、先生方は多忙なので、宿題をたくさんやってきてくるという研修は止めていただきたい。今の流行りでワークショップがあるが、先生方には考えてきてもらうことは少しだけにして、先生方が研修を受けてよかったと思えるものにしていきたい。皆さんのご意見を聞いて思ったのが、現役時代に実績を残されて今は退職された先生方に、実践的な話をしてもらうのはどうだろうか。今、現場にいる若い先生方は経験が少ないので、役に立つのではないかなと思う。

・子どもも先生もゆとりを持って授業に集中していける環境づくりが一番だと思う。

■議事(2)

F 委員

- ・12ページの「基本目標3 健やかな身体を育む教育の推進」の「アンケートから見えること」に、「『明るく元気で、心身ともに健やかに育つ』が82.6%と突出して高い。」とあるが、それはみんな思うことである。そのためには、子は親の背中を見て育つというように、親がある程度、手本を見せる必要があると思う。親がまっとうに働いて、立派な生き方をすれば、子どもは道を反れずに、明るく健康で人と協調していける人物に育っていくと思う。
- ・家庭教育も重要であるが、このごろ核家族化が進み、祖父母と住まなくなったために、立派な生き方を教えられなくなった。
- ・19ページの「基本目標6から見える方向性」の「生涯学習・図書館」について、学ぶ人が少なくなっているとのことだが、学ぶことばかりしても、それを地域に活用しなければ意味がない。学んだ人は、必ずそのような方向に進んでほしい。
- ・少子高齢化が進み、学校の統廃合の可能性が出てくるが、子どもがいないと世の中の暮らし方のサイクルが成り立たないので、教育も含めて、世の中の現状を見つめ直す必要があると思う。

N 委員

- ・保護者でも、教職員でも重要度が高かった「いじめ・不登校への対応と支援」について、来年4月に「学びの多様化学校」として、1学年20人程度の県立の「潮彩中学校」が開校するが、それができたら、そこが中心となって小中学校関係なく、研修をやっていただけるのだろうか。学校だけでは対応できないので、多面的な環境の中で、不登校の子どもたちを支えていかないといけない。
- ・1クラスの定員が35人だが、20人くらいのクラスもあれば、35人くらいのクラスもある。35人近いクラスだと先生の負担が大きい。人件費がかかるので、すぐには無理だと思うが、鳴門市として、定員を30人にして、ほかの市町村と差をつけてはどうだろうか。市費講師を増やして対応すれば、魅力のある鳴門市につながると思う。

会長

- ・鳴門教育大学に徳島県が作ろうとしている「潮彩中学校」に関しては、ほかの学校も協力している。直接関わっているわけでないで、詳細は分からないが、7月18日に見学会があり、想像以上の見学者が来ていた。鳴門は徳島県の北部の少し離れたところにあるが、それだけニーズがあると感じた。かなり関心が高くなっていると思う。

F 委員

- ・人権の会合が何かでいじめについて問うたことがあるが、そのときには「完全にはなくなる」という答えをいただいた。完全になくなくなるとも、何か方法があるはずだと考えている。アスティとくしまで人権教育の大会があり、高知県の女性の先生から、小学校に入学してきた外国の子どもが話し相手もおらず、孤独になっており、保護者も先生も困っていたところ、友達ができるとその問題が解決したという報告があった。

会長

- ・話を戻す。事務局から願います。

学校教育課長

- ・学校における市費職員について、現状、会計年度任用職員という立場で、特別支援や学力向上推進アドバイザーなどという形で配置をしている。クラス担任は県からの正規の職員が務めている。人員不足は県のほうでも課題となっているので、きちんと配置できるように市としても働きかけや協力をしていきたいと思っている。

N 委員

- ・行政の限られた予算の中で、それを最大化することが一番大事だが、物事を決める側の考え方と、住民や企業の感覚があまりにも離れすぎている気がする。自分はセンスがないと思っている。鳴門にどのくらいの幼稚園があるか分からないが、公立と私立で子どもの取り扱いになっている感覚がある。
- ・小学校から英語の教育が始まるので、公立でも英語を話せる先生を1名ずつ派遣して、私立でやっ

ているような学びをしてほしいとお願いしてきた。そうすることで、小学校、中学校、高校の英語の学びがスムーズになり、外国の方が増えていくことにも対応できると思う。うちにインドネシアのバリ島から来たスタッフが3名いるが、日本の文化を学びつつ、インドネシアの遊びを幼稚園の子どもたちに教えるなどの交流を行っている。18ページにある外国語教育の部分で、小中だけでなく、幼稚園から始められれば、徳島県内ではどこも行っていないので、鳴門市の売りの1つになると思う。

・先ほど、鳴門教育大学にできる不登校の中学校の話があったが、その案内を見たときに、「不登校の子どもたちの学校」ということを全面に出しすぎていたので、すぐに県にクレームを入れた。教育委員会としては、不登校の解決のために時間を注いできたことは分かるが、「不登校」という言葉を全面に出すと、本当にしんどい思いをして不登校になった子どもやその保護者にとっては、それ自体がコンプレックスになる。「多様な学び」を目指すなら、もっと「多様な学び」を全面に出すべきである。子どもの心をケアするためにも、そのあたりも含めて、しっかりとケアすべきである。徳島市内に夜間中学校があり、開校当時はメディアもよく取り上げていたが、今はあまり聞かないので、そういったところも活用し、鳴門教育大学と連携しながら、心が傷ついた子どもを守ってほしい。そして、逆にその中学校から「多様な学び」を県内の中学校に発信して、刺激を与えるくらいの中学校になってくれると個人的に嬉しい。

会長

・個人的には「潮彩中学校」という名前の「彩」の部分がいいと思っている。様々な「色」があるということで、「多様な学び」を打ち出しやすいと思う。

・事務局には、次回までに委員のご意見を反映して、より具体的な計画の見直し案を作成いただきたい。

事務局

・本市では「なると学力調査」、「AIドリル」などをパッケージとして進めており、今後、これらの取組を更に推進し、子どもたちの学びを継続的に支えていくために、「鳴門市学力向上条例(仮称)」を制定したいと考えている。この条例は、学力向上に向けた市の基本的な考え方を明らかにするとともに、教育への投資を将来にわたって、安定的、継続的に行っていくための土台となるものと考えている。今後、条例の内容を検討する審議会を設置する予定となっているので、本審議会の委員の中から何名かに委員の就任をお願いしたいと考えている。審議会の詳細な構成等については、今後、検討を行い、決定していくので、ご理解とご協力をいただきたい。

・次回の会議は10月ごろを予定している。詳細な日程が決まり次第、事務局から連絡させていただく。

会長

・アンケート内容の資料を今回もらっているが、まだ公表してはいけないのか。

学校教育課長

・まだ外部には出していない。今後、市のほうで外部向けに簡略化したものを作成して公表する予定であるので、今回、お渡しした資料については、各自で保管をお願いする。今後の審議会の参考資料にしていきたい。

会長

・次の会議のある10月くらいには、公表のタイミングを提示してもらえるのか。

学校教育課長

・そうである。